

# 21PO-am406

## ゼミ発表における学習支援システムの活用について

○小山 淳子<sup>1</sup>, 児玉 典子<sup>1</sup> (<sup>1</sup>神戸薬大)

【目的】医療専門職は状況に合わせた正確な判断力と問題解決力が必要とされる。本学の総合文化演習（2年次通年）では、自らの置かれている状況や問題点を分析し、解決方法を考え、それを他者にわかりやすく提示できる主体的で自発的な問題探求解決型能力の基本を涵養することを目指し、少人数のゼミ形式により、人文科学、社会科学系諸科学の基礎的観点や思考方法を学ぶことを通じて、読解力、文章表現力、意見発表、討論の能力を養っている。しかし、学生発表が終わった後の質問や討論が活発にならない学年がある。そこで、学習支援システムのクリッカー（以下、CS）とスマートフォン（スマホ）（以下、SS）を用いて、一方通行になりがちな発表を双方向参加型に変えることができないかを試行した。

【方法】前期は、学生がパワーポイントを用いた発表内容に関する問を作成し、問題提示、回答（15秒）までをクリッカー（木村情報技術株式会社、SunVote）を使って行い、正解発表、質問に答えるという形式をとった。アンケートもクリッカーを用いた。後期は、スマホを用いた講義支援アプリ（京都廣川書店、「先生！わかりません」）を前期と同様に用いて発表とアンケートの一部を行った。

【結果・考察】結論から言えば、双方向参加型システムを活用して、発表への他の学生への参加を活発にし、議論などを通して理解を深めようという当初の目的は上手くいかなかった。CS、SSの特性である「匿名性（誰が答えたか不明）」「回答分布が分かる」「クイズのよう」などといったものに関しては、概ね好意的であった。しかし、今年の学年では匿名性があっても、学生間でのコメントや質問しにくいという意見が多かった。目的達成のためには、教師の積極的関与やシステムの使用場面の検討など、今後検討が必要であろう。